

簡単にできる！

反転学習用ビデオ教材作成 ガイドブック



目次

はじめに	2
------------	---

準備するもの	3
--------------	---

反転学習の動画作成の手順	5
--------------------	---

NU(ホワイト)ボードを使って撮影する場合	6
-----------------------------	---

黒板を使って撮影する場合	7
--------------------	---

使用するものを選ぶ	8
-----------------	---

チェック1 NUボードを使う際のカメラの設置について.....	9
---------------------------------	---

チェック1 黒板を使う際のカメラの設置について.....	12
------------------------------	----

チェック2 音量調節について	15
----------------------	----

チェック3 明るさの調整について	17
------------------------	----

チェックが終わったら	19
------------------	----

撮影時の言葉かけ	20
----------------	----

反転学習の動画作成のコツ10	22
----------------------	----

おわりに	26
------------	----

はじめに

反転授業とは、学校の授業で教師が伝達していた、新しい知識や技能をビデオで録画し、そのビデオを家庭学習で予習として、授業前に視聴します。

学校の授業では予習として、ビデオを視聴してきた児童生徒が集まり、理解できなかった点の確認や個別指導、あるいはグループによる問題解決等の協同学習や応用問題、発展問題に取り組む時間にあてます。

このように、ICTを活用した家庭学習と学校教育を連携させた指導法のことを反転授業といいます。

反転学習には、児童生徒に合わせた動画を作成することが求められていますが、コンピューターが苦手、アプリの使い方等も難しいという方もいると思います。

そのためこのガイドブックでは、アプリを使用したり、パソコンでの編集を行ったりする必要はなく、ビデオ教材を作成するための準備段階の説明をしています。

授業内容や実践例の紹介は行っていないですが、このガイドブックを参考にしながらビデオ教材作成を行えば、撮り直しを行うミスは減ると思います。準備をしっかりと行い、反転学習用ビデオ教材を作成してみてください。

準備するもの

必ず準備するもの

iPad

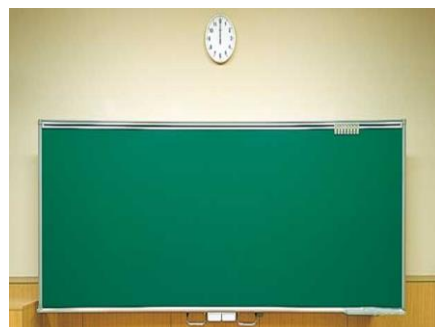


iPad用三脚



黒板を使う場合

黒板



準備するもの

NU(ホワイト)ボードを使う場合

NUボード
(ホワイトボードでも可能)



ホワイトボード用ペン



ホワイトボード用
イレーサー



反転学習の動画作成の手順

①反転学習動画と学校の授業展開を考える。
(20ページ～25ページを参考に)

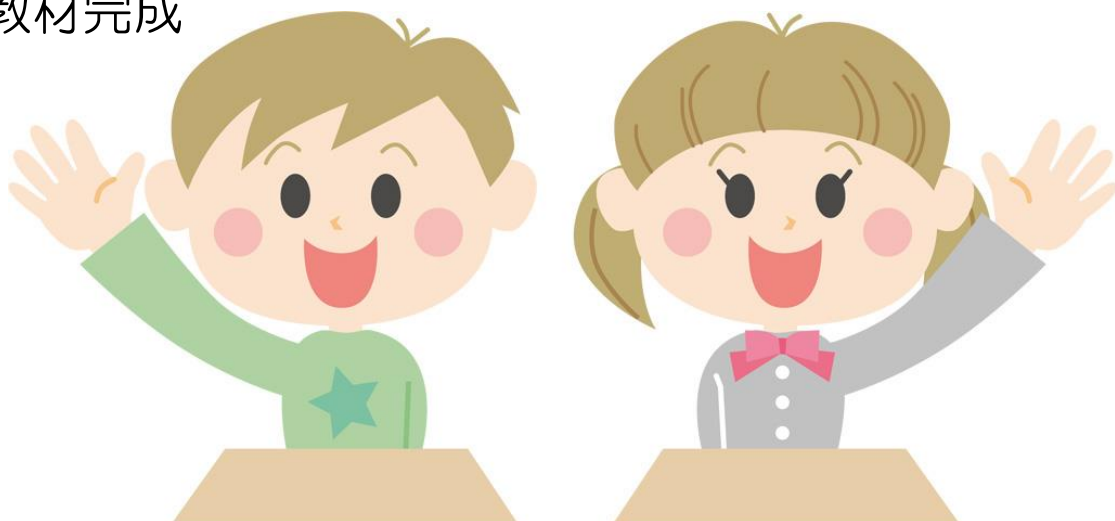
②教材等を作成をし、一度通して練習をしておく。

③撮り直し等をしなくてよいように、
3つのチェック(試し撮り)を行う。
(9ページ～18ページ)

チェック1	設置について
チェック2	音量調節について
チェック3	明るさの調整について

④撮影を行う。(19ページ)

⑤教材完成



NU(ホワイト)ボードを使って撮影する場合

NUボード



ホワイトボード (NUボードがない場合)



メリット

- 黒板がない場合でも撮影可能！
- 自宅でも撮影が可能！

スムーズに撮影するための準備

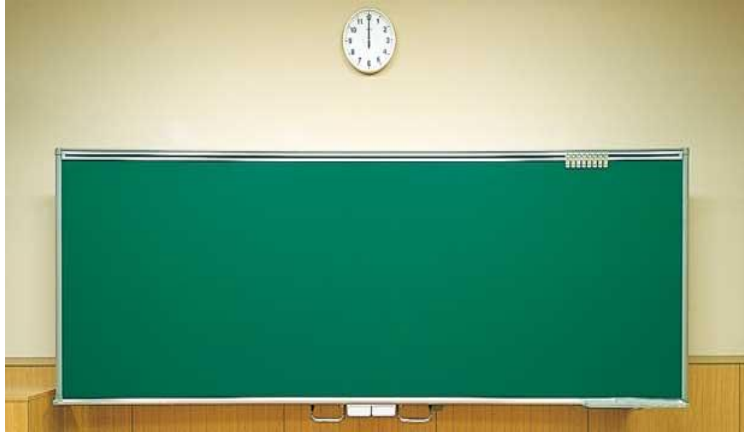
- NUボードの場合、ホワイトボードが何枚もつづられているため、事前を書いておくことができる。
- ホワイトボードの場合、3枚程度ホワイトボードを準備し、事前を書いておくことでスムーズに撮影することができる。

撮影時の背景の工夫

NU（ホワイト）ボードが白いため、背景を黒にするとより見やすくなる。
また、児童が背景の他のものに気を取られないようにするために、背景はシンプルにするとよい。

黒板を使って撮影する場合

黒板



メリット

教室の黒板を使うことで、
児童が授業を受けている状況で撮影することができる。

教材提示する際のポイント

教材は一度カメラに近づけて、教材をしっかりと見せた後、
黒板に貼るようにする。

このようにすると、動画を再生した際
どのような教材を黒板に貼っているかがよくわかる。

使用するものを選ぶ

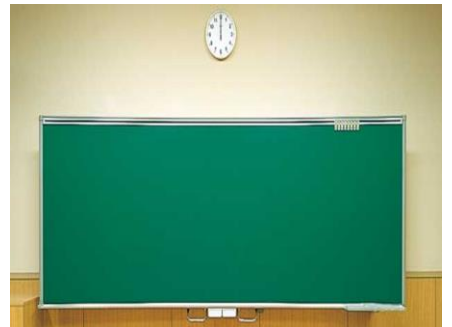
NU(ホワイト)ボード を使用する場合

次のページへ



黒板を使用する場合

1 2 ページへ



NU(ホワイト)ボードを使って撮影する場合

チェック1 設置について

①机の上にNU（ホワイト）ボードを置く。



②三脚にipadを固定し、
NU（ホワイト）ボードが写る場所に動かす。

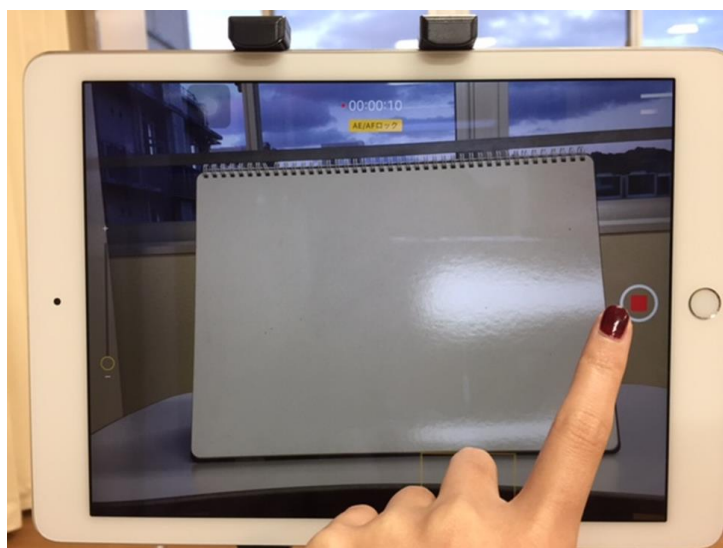


NU(ホワイト)ボードを使って撮影する場合

③iPadの録画ボタンを押し、撮影する。



④10秒程撮影したら停止ボタンを押す。



NU(ホワイト)ボードを使って撮影する場合

⑤きちんと文字等が写っているかどうか確認する。

⑥写っていない場合は、
高さの調整を行う。



⑦調整が終わったらもう一度③から行う。

⑧画面上にきちんと入っていればOK！

チェック1 終了

黒板を使って撮影する場合

チェック1 設置について

- ① 三脚にiPadを固定し、
内側カメラを使い撮影するので、
黒板の方にiPadの画面を向ける。



- ② 黒板全体が写る場所に動かす。

- ③ iPadのビデオの撮影ボタンを
押したら、自分（教師）は
黒板の前に移動する。



黒板を使って撮影する場合

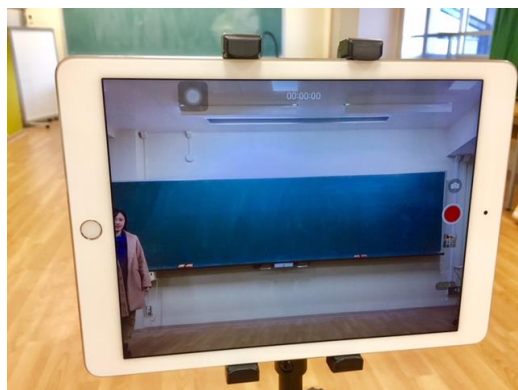
④ 撮影する際は内側カメラを見ながら、
自分（教師）が写っているか確認しながら撮影する。

⑤ 横にどの程度まで動いていいかを確認する。
（撮影している際、動きすぎると
カメラに写っていない場合があるため）

○ 全体が写っている



✕ 全体が写っていない



⑥ 黒板の前から、
カメラの場所まで移動し
停止ボタンを押す。



黒板を使って撮影する場合

⑦ 教師と黒板が写っているかの確認を行う。

⑧きちんと写っていない場合は、高さの調整や三脚の位置を近づけたり、遠ざけたりする。



⑨ 調整が終わったら、
③からもう一度確認テストを行う。

⑩ 教師と黒板が写っていればOK！

チェック1 終了

チェック2
次のページへ

チェック2 声量調節について

★ポイント

- NU（ホワイト）ボードで撮影する場合は、教師（自分）とカメラの位置が近いため、そこまで大きな声は出さなくてもよい。
- 黒板で撮影する場合は、教師とカメラの位置が離れているため、大きめの声で話すようにする。



チェック2 声量調節について

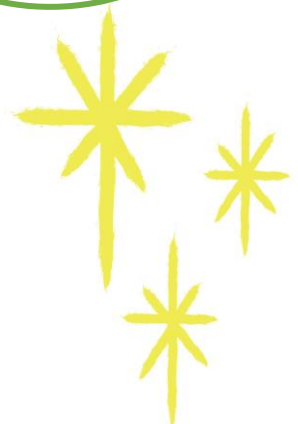
- ① iPadのビデオの録画ボタンを押す。
- ② 本番撮影する際に話す位置へ移動する。
- ③ 10秒程度話してみて、録画ボタンを停止する。
- ④ 録画したものを確認する。
- ⑤ 声の大きさが適度でない場合は、もう一度①から行ってみる。
- ⑥ 声をはっきり聞こえればOK！

チェック2終了

チェック3 明るさの調整について

★ポイント

- ・文カード等の紙（背景）が白、文字が黒で書いてある場合反射しやすいので、できるだけ文字はチョークで書くようにする。
- ・昼間に撮影すると光の関係で文字が写りにくい可能性があるため注意する。



チェック3 明るさの調整について

- ① iPadのビデオの録画ボタンを押す。
- ② 実際に使う教材を黒板に貼り、黒板に文字を書く。
- ③ 録画ボタンを停止する。
- ④ 電気や光の関係で、教材や文字が反射していないかを確認する。
- ⑤ 反射している場合はカーテンを閉めたり、電気の明るさを調整する。
- ⑥ 明るさの調整が終わったら、もう一度①から行ってみる。
- ⑦ 文字や教材がみえればOK！

チェック3終了

チェックが終わったら

撮影

3つの確認テストが終わったら、
いよいよ本番。

確認テストと同様に
iPadのカメラのビデオのボタンを押し、
撮影開始。

撮影が終わったら、
停止ボタンを押し撮影終了。

アプリなどで編集などを行わないため、
撮影したものがビデオ教材となる。

教材完成！

撮影時の言葉かけ



反転学習では、
児童達が動画の再生ボタン、一時停止ボタンを
自分で押し、ノートやワークシートを埋めながら
学習を進めていくことになる。
そのため細かな言葉かけが必要となる。

言葉かけ4つのポイント

1. 記入すべき事項を明確にする

「この文を書きましょう。」等
※細かな指示を出す。

2. 自分の考えや意見をまとめ、記述させる

「自分の考えをノートに書きましょう。」等

※ ただ書いてある言葉を写すだけでなく、
自分の考えや意見まで書かせる指示を出す。

3.小刻みに動画を止めさせる指示を出す

「ここでいったん動画を止めましょう。」

「ノートに書き終えるまで一時停止しましょう。」

※大事なキーワードを書き写さずに、
ただ動画を見るだけでは学習したことが身につかない。

4.振り返りができるような指示をする

「書き終えましたか？」

「自分の考えは書けましたか？」

「この活動ができたら

（書き終えたら）続きを見ましょう」

「〇〇することはできましたか。」等

※子ども達に自分の行動を振り返らせるようにする。

反転学習の動画作成のコツ10

コツ1 ことば・音声・図 には 注意せよ

余計な言葉、音声、関係ない
図やイラストはいれない。

コツ2 目立たせるべし

重要な言葉・図は
色ペンを使ったり、大きめに書いたり、
磁石に答えを書いたものを後から貼るなどの
工夫をして目立たせる。

※NU（ホワイト）ボード・黒板の中に
目立たせたいワードを1つにすることがポイント。

コツ3 端的にすべし

書き言葉も話し言葉も短く、
簡単に、端的に述べる。

反転学習の動画作成のコツ10

コツ4 配置に気を付けるべし

NU（ホワイト）ボードを使用する際、
文と図やイラストで関連するものは、
上下左右のように隣に並ぶように配置する。

コツ5 時間(提示時間)に注意すべし

対応する言葉と絵や図は
同時に示すようにする。
また動画の長さは5分以内がベスト。
長くても10分以内にする。

コツ6 分けるべし

NU（ホワイト）ボードを使用する際、
書きたい内容が多い場合は
一度ページにすべての情報を書くのではなく、
何枚かに分けて書くようにする。

反転学習の動画作成のコツ10

コツ7 復習をいれるべし

その動画に関する、
復習（前時であったり、前学年に戻る）内容に触れて
本時につながるキーワードを確認したのち
新しい内容に入るように進めていく。

コツ8 言葉と文字を使い分けるべし

すべてNU（ホワイト）ボードや黒板に
書き表すのではなく、キーワードのみを書き、
話し言葉で説明していく。

コツ9 言葉と絵・図を表示すべし

言葉だけでなくイラストや図を入れることで
記憶に残りやすく、児童がイメージを膨らませて授業を
受けることができるため、話し言葉と絵・図で説明を
進めていく。

反転学習の動画作成のコツ10

コツ10 堅苦しくならないようにすべし

動画だからと堅苦しくならず、
普段授業をするように、
会話スタイルで話しかけて撮影する。



おわりに

反転学習用ビデオ教材作成はできましたか。

撮影を行う前にしっかり確認を行えば、
スムーズに撮影が行えると思います。

授業内容、授業展開等は
あなたの力量にかかっています。

子ども達の予習を充実させるためにも
ぜひ魅力ある動画作成を目指してください。
